

第3回蒲郡市東港地区まちづくりビジョン策定委員会 議事録

開催日時	令和3年8月16日(月) 午後2時から午後3時まで
開催場所	蒲郡クラシックホテル バンケットホール
出席者	<p><b>【会 長】</b>  ・愛知大学 地域政策学部教授 戸田 敏行</p> <p><b>【委 員】</b>  ・愛知工業大学 工学部 建築学科教授 安井 秀夫  ・蒲郡商工会議所 会頭 小池 高弘  ・蒲郡青年会議所 理事長 伊藤 健二  ・中部地方整備局 三河港湾事務所長 嶋原 茂  ・愛知県都市・交通局 港湾課長 飯田 耕三  ・愛知県都市・交通局都市基盤部  都市計画課長 小井手 秀人  ・愛知県東三河建設事務所長 白村 暁  ・愛知県三河港務所長 渡邊 恒博  ・愛知県蒲郡警察署 交通課長 田中 祥浩  ・蒲郡市建設部長 鈴木 伸尚  ・竹島水族館長 小林 龍二  ・蒲郡クラシックホテル統括支配人 安川 貴也  ・蒲郡市観光協会常務理事 高井 知明  ・蒲郡総代会蒲郡町部地区会長 細井 政雄  ・がまごおり市民まちづくりセンター代表 金子 哲三</p> <p><b>【蒲郡市】</b>  蒲郡市長 鈴木 寿明</p> <p><b>【事務局】</b>  ・建設部 東港地区開発推進室室長 藤井 克巳  ・建設部 東港地区開発推進室副主幹 権田 吉宏</p> <p><b>【委託業者】</b>  ・株式会社創建 名古屋本店 2名</p>
議 題	1 蒲郡市東港地区まちづくりビジョン案について 2 パブリックコメントの結果報告 3 その他
会議資料	・次第 ・委員名簿 ・蒲郡市東港地区まちづくりビジョン(案) ・第2回蒲郡市東港地区まちづくりビジョン策定委員会 議事録 ・パブリックコメントの結果 ・パワーポイントの印刷資料

会議内容	<p>1 蒲郡市長挨拶</p> <p>本日はお忙しい中、ご参加いただきありがとうございます。蒲郡クラシックホテル様のご厚意により、蒲郡クラシックホテルのバンケットホールを会場としてご提供いただいた。御礼を申し上げる。委員の皆様が高い関心を持っていただき、このような会議の開催ができたこと、また、様々な活動へのご協力について御礼を申し上げます。</p> <p>蒲郡市東港地区まちづくりビジョン策定委員会は、これまでに昨年12月と今年3月の2回開催し、委員の皆様より大変貴重なご意見をいただきました。ご意見を元に、蒲郡市東港地区まちづくりビジョン（案）を作成し、先日パブリックコメントを実施した。本日は、パブリックコメントの内容を踏まえ、最終的な議論を行っていただき、蒲郡市東港地区まちづくりビジョンを完成させ、公表していきたいと考えている。完成した蒲郡市東港地区まちづくりビジョンを今後のまちづくりの羅針盤として、東港地区が、委員の皆様をはじめ市民の多くの方が思い描く、居心地のよい空間に生まれ変わっていくことを期待している。本日の会議も忌憚のないご意見をいただきたい。</p> <p>2 会長挨拶</p> <p>蒲郡市東港地区まちづくりビジョンは、蒲郡市のまちづくりのパイロットプランになると認識している。三河港としても大変重要であることから港湾関係者に携わっていただいている。本日は、最後の委員会となるため各委員から忌憚のない意見を賜りたい。</p> <p>3 蒲郡市東港地区まちづくりビジョン案について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事務局説明</li> </ul> <p>4 意見</p> <p>A委員：</p> <p>蒲郡市東港地区まちづくりビジョン（素案）より修正が加えられた蒲郡市東港地区まちづくりビジョン（案）では、「まちづくりの推進体制と役割」が追加されたことで、進め方の概略が見えてきた。「空間の基盤づくり」については、各地方都市でも大変うまく進められている事例があり、長門湯本温泉のプロジェクトを紹介する。長門湯本温泉では、市が廃業した旅館を買い取り、そこを株式会社星野リゾートにお願いして、温泉地の再生に取り組んだ事例である。初期段階でエリア全体の姿を見据えた計画を持つことで、一民間事業者をお願いするだけではなく、他の温泉事業者や地域の方が一緒に様々な仕掛けに取り組みながら再整備を進められてきた。その結果、多くの方が訪れており、賑わいが戻り活気づいている。まさに、推進体制と役割のところでも示されていることを実際に取り組んでいる事例</p>
------	---

である。

今後、東港地区において、市民や事業者が様々なことに取り組んでいくと思われるが、各自が勝手に取り組むとまとまりのないまちづくりになっていく恐れがある。そのため、成功事例に学ぶことが大事であると考えている。長門湯本温泉の様に、エリア全体の構想や、開発エリアのランドデザインとなる全体のランドスケープデザインをつくり、そこへ目指して進んで行く姿が望ましいと考えている。

このような進め方をイメージして、今回のプロジェクトを進めていくためには、プロジェクトマネジメントをまとめることができるメンバーが必要である。具体的な候補者にふさわしい学識者を紹介する。2019年まで、まちづくりを手掛けている建築事務所に所属しており、2020年より、大学の教員に採用されている。また、長門湯本温泉のプロジェクトリーダーとして計画をまとめてきた実績がある。また、蒲郡市公共施設マネジメント会議の有識者メンバーである。蒲郡市東港地区のまちづくりにも注目されており、これまでの経験から土地利用構想の検討とあわせてランドスケープデザインの考えもしっかり持って進めることが重要であると示されている。

実際のプロジェクトを経験されてきた学識者として、この東港地区でも活躍していただけたらと考えている。現場を知る学識者は少ないため、今後のまちづくりを進める中で、その先生に協力いただくことを推薦させていただく。

事務局：

ご意見、ありがとうございます。市としても、蒲郡市東港地区まちづくりビジョンに沿って進めていく中で、まちづくりのプロジェクトに実際に関わられてきた学識者の方に関心を持っていただけたことは大変ありがたい。また、そのような方に関わっていただくことが重要であると考えており、土地利用構想の検討、具体的な土地利用計画の検討、土地利用の実現へと進めていく中で、ランドスケープデザインという視点も必要になってくると思われるため、ご推薦いただいた先生に一度ご相談させていただきたい。

## 5 パブリックコメントの結果報告

- ・ 事務局説明

## 6 意見

B委員：

パブリックコメントでは、バルセロナの事例が挙げられていた。バルセロナでは、オリンピックの開催を機にまちづくりを行い、海岸沿いもレストランや水族館、映画館のある地域として、費用をかけて整備された。しかし、水族館や映画館への来訪者は少なく、建物がある割には閑散としているため、大丈夫かと不安になる。理由として、バルセロナに訪れた人は水族館等より他に見るところがあるためだと考えられる。そのため、

もっとまちに根ざした施設でなければ難しい。

蒲郡市東港地区まちづくりビジョンでは、竹島水族館が記載されているが、蒲郡のまちにおいてどのような位置づけとするのか。竹島水族館では、「がまごおり深海魚まつり」や「まちじゅう食べる水族館」等のイベントを実施されており、竹島水族館の利用者は10万人から40万人まで増加した。また、まちの人たちも水族館に行く目的や期待感を持っている。一方で、本来であれば、指定管理者の仕事ではないと思われる。今後は、水族館の利用者が多いため、「まちじゅう食べる水族館」として、まちの飲食店と水族館が連携した観光施設にするなど、竹島水族館のガバナンスをどのようにするのかという話が必要となる。

竹島水族館は一例であるが、蒲郡市東港地区まちづくりビジョンに示しているとおおり、将来的に市が所有しているまちの観光施設のガバナンスやまちに根ざした施設となるような仕組みづくりについて、市民と一緒に考える必要がある。

観光施設を公共施設として全て所有するとよいかは別問題であるが、そのようなことも含めて検討して施設をつくる必要がある。一見するとよさそうであるが、最初に人が多く来ても、以降は廃れてしまうことになりかねない。パブリックコメントの結果報告から心配になったため、そのような視点をつくってもらいたい。

整備時期等の記載はないが、東港のエリアに「水族館」と具体的に名称が記載されている。今後、5年、10年で新しい水族館ができるとは思えない。水族館の移転についての検討もなく、記載されているため、考えていく必要がある。多くの水族館では、開館以降、利用者数は減少する。下関市立水族館海響館も120万人の利用者が60万人まで下がっている。竹島水族館の利用者が新規整備なしで、10万人から40万人に増加したことは奇跡に近いと、その理由をよく考える必要がある。また、具体的な名称を記載すると、後に縛りになるようで不安である。

そのようなことを踏まえながら、蒲郡市東港地区まちづくりビジョンは大きな考え方のため、B委員のご意見のとおり、具体的に時間軸や検討するものを考える必要がある。

戸田会長：

蒲郡市東港地区まちづくりビジョンの実現には、つくる人を支える制度と、続ける人が必要である。小池委員のご意見のとおり、蒲郡市東港地区まちづくりビジョンは一つの土俵のため、ここから具体的に進められるように期待をしたい。

策定委員会は本日を含めて3回開催し、東港地区のこれまでの背景、市民の皆様が求めるまちの姿を踏まえて検討してきた。まちづくりの方向性等について、これまでに多くのご意見をいただいた。事務局の説明のとおり、パブリックコメントが実施され、1名の意見であったが、様々な考え方の1つの例だと思

われる。このような機会を経て蒲郡市東港地区まちづくりビジョンは最終案のかたちになった。

委員の皆様より他にご意見がなければ、最終案を蒲郡市長へ提出したいと考えている。ご賛同いただける方は挙手をお願いします。

(委員全員の挙手)

委員の皆様よりご賛同いただいたため、蒲郡市東港地区まちづくりビジョンの最終案として市長へ提出する。

## 7 その他

- ・ 事務局よりまちづくりビジョン策定までの手続き等を説明

## 8 会長挨拶

戸田会長：

委員の皆様におかれましては、本策定委員会にご協力いただきありがとうございます。第3回で策定委員会は終了となる。

蒲郡市東港地区まちづくりビジョンは、蒲郡市の歴史から始まっている。私は兵庫県の出身であるが、「海の眺めは蒲郡」という鉄道唱歌を記憶していた。このような歴史を踏まえ、これからのまちづくりをどのように行うのかが大変重要である。また、三河港には40年近く関与させていただいてきた、一貫して工業の港をつくってきたが、開発期から成熟期を迎える中で、本日の説明にもあった、人と港がどのように接するのかが大きなテーマだと思われる。そのような意味でも東港地区は三河港の核となる地区であり、大きなコンセプトになると思われる。引き続き、東港地区のまちづくりが実現されるよう、それぞれの委員の立場で役割を担っていただけるようお願いする。

## 9 蒲郡市建設部長（鈴木）挨拶

本日は、大変お忙しいところお集まりいただき、ありがとうございます。策定員会は第1回を昨年12月25日、第2回を3月30日、第3回を本日8月16日の開催となり、年末、年度末、お盆と委員の方の大変お忙しい時期の開催となり、申し訳ありません。そのような開催時期にも関わらず、ほとんどの委員の皆様にご出席いただき、活発なご意見をいただいた。また、本日は全委員に出席していただけた。御礼を申し上げます。また、蒲郡クラシックホテル様からは市長挨拶でもあったとおり、本日の会場をご提供いただき、策定委員会を締めるにあたり、このように格調高い場所で開催できたことを重ねて御礼を申し上げます。

東港地区は、庁内においてもどのようにしていくのかという声があった。そのような中で、一昨年に市長が変わり、市長より東港地区のまちづくりを進めていく言葉をいただき、専属の部署も設けて進めてきた。蒲郡市東港地区まちづくりビジョンを策定していくことで、市民の方にも東港地区のまちづくりを

本当に進めていくことを様々な場所で知っていただく機会になったと感じている。

今後、東港地区が変わっていくには、まだ時間や様々な手続きなどが必要となる。何年後かには、委員の皆様からは「よくなった」と、市民からは「ついついここへ来てしまう」と言っただけの場所にしていきたい。

先ほど、戸田委員の話のとおり、策定委員会は本日が最後となるが、引き続き、勝手なお願いではあるが、様々なご意見、ご助言を委員の皆様よりいただきたいと考えている。引き続きよろしくお願いいたします。

本日はありがとうございました。